

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103338		
法人名	有限会社 すみれの里		
事業所名	グループホーム すみれの里		
所在地	長崎市富士見町15番5号		
自己評価作成日	令和3年1月25日	評価結果市町村受理日	令和3年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 2年 3月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前回の評価時より数名の入退所はありましたが、入居者が女性だけで構成されているグループホームです。
ひとり一人の状態を日々観察しながら、個別ケアを中心に「家庭的な雰囲気」を大切にして支援しています。
季節の行事や誕生会などを行ないながら入居者・スタッフの交流を深めながら良い刺激を与えながら生活しています。
医療連携も保たれていて、急変時にはしっかり対応出来るよう日々勉強を行なっている施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

落ち着いた住宅地に建つホームは「今、この時を大切に！」を理念に掲げ、入居者が自分らしく生活し、地域の一員として暮らすための支援を具現化している。今年度は新型コロナ禍にあり、運営推進会議が書面での開催となったが、規定メンバー以外の家族にも議事録と意見書を送付し、外部の意見を積極的に取り入れようとする姿勢が窺える。介護計画は、家族や入居者視点で作成しており、わかりやすい言葉と内容で構成している。また、現在入居者の馴染みや生活歴の掘り起こしを行っており、入居者との関わりから職員は「すみれ食堂」と称するレクリエーションを企画し行い、感情を豊かに表現する支援に取り組んでいる。自治会長とも普段から意見交換し、新型コロナ禍における対応や災害時の対応など、気負わず互いの情報交換を行っている。関わる人々と地域の優しさに包まれたホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームすみれの里
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時、出勤者全員で理念を唱和。理念に沿って業務遂行に努力している。新しく入った職員にも、オリエンテーションなどを通じて理解して貰い、全職員が同じ方向を向いて仕事して行ける様に心掛けている。	職員は、毎朝申し送り時に理念を唱和し、申し送りやミーティング時に、具体的な支援について共有を図っている。特に理念冒頭の言葉の具現化に重点を置いている。職員は入居者が、その瞬間に「美味しい」「楽しい」と感じ、笑顔でホッとできるよう検討し支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会していて、自治会便りが届いています。 昨年度は公園等への散歩等行ないながら近所の方に挨拶等をしたり交流を図りましたが、コロナ過の中、今は自粛している。	ホームは、自治会に加入している。例年は、近所までの散歩や地域行事への参加など、日常的な交流を行っていたが、今年度は新型コロナ禍にあり、外部との交流を自粛している。管理者は、普段から自治会長と挨拶を交し、地域の情報を得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会に自治会役員・家族に出席頂き、認知症に対する理解と地域の実情について話して頂き参考にしていた。今年度は会議が開催できない状況だったので、自治会・家族に質問書等を配布して状況など聞ける様に努力した。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は会議を行ないながら、サービス向上に向けて意見等を聞きながら参考にしていたが、今年度はコロナ過の中開催できていない。 家族・自治会等に意見書を配布して意見を聞きながらサービス向上に生かしている。	今年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から、入居者の状況、ヒヤリハット、ホームの様子等管理者及び法人代表らが会議し報告書を作成し、意見書を添えて規定メンバー以外にも送付している。行政、自治会からの返信はあるものの、家族からの返信は確認できない。	前回外部評価も、家族の参加が課題となっている。新型コロナ禍においても、運営推進会議の意義でもある“双方向の意見交換”ができる仕組みづくりに期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	より良い生活支援が出来る様、解からないこと事等色々質問している。 また地域包括支援センターなどに出向き、相談やアドバイス等頂いている。	行政担当課にホームの実情や取組みを伝える他、運営における不明な点を問い合わせ情報を得ている。今年度は新型コロナウイルス感染予防の対応について、マスクや消毒液が市中で不足した際も、ホームの状況を把握するための連絡が入るなど、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティング・勉強会・申し送り・ミニカンファで身体拘束についての情報を共有する為、周知徹底を図っている。	身体拘束適正化委員会を設置し、身体拘束及び虐待防止委員会を年4回実施している。また、本年2月から毎週テーマを決め、管理者が、毎朝身体拘束に関する話題を話すことにより職員の支援の意識付けを図っている。職員は、リスクマネジメントも検討し、抑圧感のない支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に常に話し合える機会を持ち、日頃から虐待や拘束について考え互いに注意しながら業務を行なっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者が居る。成年後見人制度の役割等を理解しながら支援している。 解らない事等は相談し理解しながらより良い支援に生かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に確認しながら十分に説明を行ない、疑問や不安や不明な4点にはその都度答えながら理解して頂けるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。また面会時に家族と話をしながら意見交換や日常生活の状況など伝えている。コロナ過では面会制限等も起こっているで話す機会が少なくなっているのでアンケートや意見書を発行・送付している。	利用開始時、本人・家族の意見に対応する体制を説明し、意見箱も設置している。電話やホーム便り、入居者の様子を伝えながら、家族の要望を引き出しやすくしている。今年は新型コロナ禍にあり、家族の面会が中止となったため、直接聞く機会が減っているが、運営推進会議の意見書を郵送し家族の思いを汲む工夫を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミニカンファレンスや全体ミーティングで意見を出して貰える様な環境づくりをしている。	管理者は全体ミーティングに限らず、普段から職員のアイデアを支援に活かしたいと考えている。勤務シフト変更や有給休暇は、職員の希望を優先している。今年度は職員の提案で、食を通したレクリエーションを取り入れている。管理者は、職員が会議にて職場環境や支援などの意見や提案を発言しやすい会議の進行方法を検討している。	ホームが目指す介護の実現するには、チームによるケアが重要であり、管理者が職員が会議にて職場環境や支援などの意見や提案を発言しやすい会議の進行方法の工夫、取組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見を出せる環境づくりを行ないながら、業務上の問題点や不明点を話し合えるようにミニカンファレンスや全体ミーティングを行ない、処遇改善の自己評価時にも面談し話し合える機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	処遇改善の自己評価及び日頃からの業務を通じて、優れたところ・努力する事を面談しながら「何を目標にしたら良いか」を伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ系列事業所と意見交換しながら、同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族・本人と充分話し合いを持ち、情報や要望等取り入れながら本人や家族が安心して信頼できる様に、職員間で情報や要望等を共有し、関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を聞く機会を多く作るよう努力している。 電話連絡や意見書等を活用しながらより多くの情報や要望・心配事を頂けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や要望などを受けた時点で、家族や職員と話し合いながら素早く対応出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の気持ちを職員全体で共有し、普段からの声掛けや話をしながら、本人の気持ちに寄り添いながら関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への状況報告を行ない、情報を共有できるように努力している。コロナ過の中、常に連絡を取り合いながら状況を伝えて、安心して頂ける様に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親類等が訪ねて来た時等は居室に招いてゆっくりお話し出来る様にしているが面会制限等で来所出来る環境下に無いので家族やお孫さんの写真を見ながら又、古い写真が載っている冊子を開きながら思い出話を出来る様に努めている。	利用開始時に、本人や家族から生活歴を聞き、書面にまとめている。今年度は、新たに入居者のこれまでの生活歴を掘り起こしに取り組んでいる。従来は家族や知人などの訪問面会は自由であるが、今年度は新型コロナ禍のため制限している。家族の写真や電話、手紙など活用し、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がトラブル等ならない様に職員が見守りを行なっている。食事を食べられる席等、配慮したりと関係性の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な時には連絡して関係性の途切れない様にしている。 街中で偶然会った時等気軽に挨拶出来る様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を素早く察知し検討しながら答えられる様に努力している。 困難な場合も考えられるが職員から話し掛ける機会を多く持ち、思いや希望が聞けるような努力をしている。	職員は、入居者と交わした日常会話の中から、本来の思いや希望は何か検討している。以前の暮らしぶりを話のきっかけに、入居者が思いや意向を職員に伝えている。家族の協力も得ながら、生活習慣を継続したり、自分のペースで日を過ごせるよう支援している。職員が知り得た情報は、口頭や申し送りノートなどで情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族・本人からの聞き取りを行ないながら、生活歴や趣味嗜好等解かりうる情報を書いて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやミニカンファレンス・個人記録等の情報を共有すると共に変化や状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	押し送り・ミニカンファレンス・個人記録等参考にしながら状態変化に気が付ける様、見守りを行っている。介護計画への反映にも繋がる様、職員のアイデア等見極めながら取り入れる努めている。	介護計画は、入居者・家族がどのように暮らしたいかを具体化し、誰もが把握しやすい計画である。短期3ヶ月・長期6ヶ月の目標を定め、ミニカンファレンスやモニタリングで、職員の意見を活かしながら評価を行っている。更新時は、利用者や家族の意見を汲み、見直し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の中で、気付いた事や変化を気軽に話し合いながら支援し、個人記録やミニカンファレンスに書き込み、計画に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長崎独特の祭り(おくんち等)の見物や毎日の生活の中でのお手伝い、散歩等を状況や状態を見ながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園児訪問もありましたが、今現在は新型コロナの影響で行なっていません。規制解除時には積極的に声掛けを行っていきます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週のかかりつけ医の往診と急変時の対応も行なっている。また病状に応じて他科の受診は事業所で行なう。必要に応じて、眼科・皮膚科等の往診もしていただいている。	入居者・家族の意向に沿って、かかりつけ医を受診している。歯科、眼科等も入居者の状況に応じ、適切に受診している。診断結果は受診記録に記入し、職員間で情報共有すると共に家族に報告している。協力医との関係も良好であり、緊急時の連絡網も確立している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション看護師(週1回)訪問時に状態や気づきを報告。相談している。また管理者が看護師の為、気軽に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や看護師・地域連携室と連絡を取り合いながら、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化・終末期の指針をまとめているので入所時に説明を行なっている。事例が発生すると思われる場合には再度確認を行いながら、医師・看護師と連携を取りながら家族とも協力しながら職員全員で頑張っている。	契約時に、看取りに関する指針を家族に説明し、同意書に承認を得ている。入居者の体調変化が生じた時には主治医の指導を仰ぐと共に、訪問看護や家族との連携を図り、本人や家族の意向を汲みながら看取り介護の方針を検討している。検討後は、再度看取り介護についての同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については勉強会に参加して学び、実践に生かせるように努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年間を通じ月1回の消防訓練の中に色々な想定を考えながらテーマを決めて行なっている。年2回は総合訓練を消防署員・市役所職員立会いの下行なっている。地域の防災訓練にも積極的に参加していきたいと考えている。	同建物内の小規模多機能施設と共に、毎月出火元を変え自然災害も含め、避難訓練を実施している。年2回、消防署の立会いの訓練を行っている。今年度は消防署の指導に、非常口の見直しがあったが、表示の付け直しはこれからである。また、前回の改善点である夜間専従職員の訓練参加は、改善できていない。	実際の避難口に誘導するために、非常灯の付け直しが待たれる。また、夜間専従職員の訓練参加が不可能であれば、長年掲示している避難誘導マニュアルを刷新し、熟知することを含め、ホームとして入居者の安心安全な生活のための仕組みづくりに期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として職員一同、尊敬の気持ちを持って接している。トイレ誘導・入浴の声掛け等性格に合わせて十分に配慮している。	ホームは、内部研修に接遇・マナー研修を取り入れ、職員に入居者を敬った言葉遣いと接し方を指導している。トイレ誘導や失敗時、職員は入居者の羞恥心を損ねないように、さりげなく声を掛け介助している。個人情報の管理は事務所で管理し、職員も守秘義務を理解している。ただし、入居者のプライベート空間に対する配慮が欠けている。	パッド類など羞恥心にかかわる物の収納方法、職員の居室出入りなど、入居者のプライベート空間に対して、本人の尊厳に配慮し支援に努めることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での言動や行動を見極めながら理解して出来る様に努めている。また職員同士一番良い方法を見つけ出せるように努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や様子を確認しながらその人なりのペースで行なえるように見守りや支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の生活の中で洗顔時や入浴後等に化粧水をつけたり髪の毛を梳かしたりと、普段通りを大切に心掛けながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き・おぼん拭き等出来る範囲でのお手伝いをお願いしている。お刺身や店屋物等を取ったり食べる楽しみを見つけながら支援している。食事形態も職員で話合いしながら対応している。	ホームは、配食を利用しており、入居者の嗜好や嚥下状況を外部業者に伝えている。職員は1品調理し、利用者が食べやすいよう盛り付けている。レクリエーションの一環と出前やすみれ食堂と称し利用者のリクエストを職員が調理する日を設けている。お節など季節行事に合わせた献立もあり、食欲を高め楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録して、医師や看護師に報告し支持を受けている。食事量が少ない利用者にはエンシュアリギッド等の栄養補助食品を併用しながら指導して頂いている。嚥下状態による食事形態の指導も受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず口腔ケアを行なっている。出来る方には準備をし声掛け、見守り。出来ない方には介助をしている。歯科医院往診を行ない、義歯調整等口腔内の様子を隔週でお願いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調や様子・排泄パターンを確認しながら声掛けし、出来るだけトイレに座って頂ける様に誘導している。	入居者の排泄支援状況は、排泄チェック表に記録している。職員が支援状況を把握しやすいよう、記録時ペンの色を変え、適切な支援を行っている。ホームでは、トイレで座位による排泄を入居者の習慣やパターンに応じて取り組んでいる。パッド類の使用内容や誘導方法を検討し、快適に過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を参照し3日排泄が無い時また頻回委に排便がある時には医師に相談しながら対応している。必要に応じて看護師による適便も行なう。また運動や多めの水分摂取を行なって頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に対応し週3回を目途に行なっている。汚染や拒否などある時等は時間をずらしてみたり、声掛けする人を変えてみたり適時対応している。また季節に応じての菖蒲湯やゆず湯なども実施している。	週2回入浴日を設けている。入浴拒否があった時は、無理強いせず時間や日にちを変更し対応している。洗い方など、入居者の入浴習慣を優先しており、シャワー浴や足浴を取り入れている。入居者が不安なく入浴できるよう、シャワーチェア等の補助具を各種準備し、ゆっくりと寛げる安心感のある入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間は特に設けず、ひとり一人の生活リズムに合わせています。リネン類は準備していますが好みの枕や寝具などがある場合は使わせて貰っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する情報を職員が把握しており変更時は確実な情報共有をおこなっている。服薬時には複数人で、声を掛け合い確認し習慣付けしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやおしぼり作りを手伝って貰ったり食事前後のテーブル拭きをして頂いたり、普段の生活の中で今まで行なってきた事を手伝って頂きながら生きがいに感じながら生活をしていただける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は公園に散歩や玄関先での日光浴等行なっている。長崎独特の祭りの時や今迄生活してきた近所までのドライブ等計画し、喜んでいただけるよう努力をしている。	今年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から例年のような外出ができなかったが、入居者の体調や天候など様子を見ながら、外気浴やホーム周辺を散歩している。法事など個別の外出は、家族の協力を得て検討し行っている。自粛緩和時期は、感染予防を行いドライブも実施する等、外出支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は一括して行っています。現在は事業所が前払いし、後日利用料請求時に計上するようにしている。それでも利用者の希望があれば持って頂いているが少額で。また金額については事業所が把握している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度対応している。お手紙等も職員が手伝い、出来る範囲で書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングと居室に室温計と湿度計を設置し、空気清浄機を完備しながら室温調整や換気に注意している。冬場には加湿器も完備し生活環境の保全に努めている。	キッチンに続くリビング兼ダイニングは、圧迫感のないオープンな空間で、入居者一人ひとりにとって居心地のよい場となるよう工夫し整備している。職員は入居者が安心して行動できるよう、活動に応じて調度類を配置している。毎日の清掃や換気と室温管理により快適な環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設け、誰もが座ってゆったりできる空間を作っている。またテーブルの着座位置なども決めず状態に合わせた席決めを行ったりと配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物やご家族の写真を持ってきて頂き、居心地の良い空間作りが出来るように家族と職員が相談しながら行なっている。テレビ等要望があれば設置している。	在宅時の居室環境に近付けるよう、家族の写真を貼ったり、家族の協力を得て使い慣れた家具やテレビ、信心用品など馴染みの物を持ち込んでおり、安心できる環境づくりを支援している。職員は換気や温度調節、清掃にて環境整備を行い、入居者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手摺も設置している。声掛けしながら安心・安全に過ごせるような環境づくりを心掛けている。危険箇所が無くなるような整理整頓を心掛けている。		